

■豊かな自然を子どもらが発信 三木で里山まつり



環境体験学習について発表する豊地小の児童＝三木市細川町増田

兵庫県三木市のNPO法人「三木自然愛好研究会」は3日、同市細川町増田の「増田ふるさと公園」で、自然に親しむイベント「里山まつり」を開いた。地域住民らが、公園内を巡るクイズや火起こし体験などを楽しんだ。

同公園の豊かな自然を多くの人に知ってもらおうと、同会が2002年からほぼ毎年開く。まつりは「赤とんぼ」などの合唱に続き、豊地小学校(同市細川町豊地)3年生が環境体験学習の成果を発表した。

今年6月～10月に同公園を訪れ、公園ができた経緯や園内で見られる生き物について学んだ児童4人。発表では、発見した動植物の写真を掲げながら大きさや特徴などを説明。「絶滅が心配されているカワバタモロコがたくさんいてびっくり」、「ニホンアカガエルはヤマアカガエルと比べるとちょっとスマートで都会派の印象があります」などと魅力を伝えた。

ニホンアカガエルについて発表した女兒は「初めて見たときは『オレンジのカエルや何だこれ』と思ったけど、調べていくうちに珍しいと知って好きになり、大切にしたいと思うようになった」と熱っぽく語った。(大橋凜太郎)

[ブラウザの戻るボタンでお戻りください](#)